

第13回宇宙輸送システム部会 議事録

1. 日時：平成26年3月18日（火） 14：00－15：54

2. 場所：内閣府宇宙戦略室 大会議室

3. 出席者

（1）委員

山川部会長、白坂部会長代理、仁藤委員、御正委員、薬師寺委員、渡邊委員

（2）事務局

西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

（3）説明者

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課課長 柳 孝

宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙輸送ミッション本部事業推進部長 布野 泰広

宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙輸送ミッション本部宇宙輸送系システム技術研究開発センター技術領域総括 有田 誠

4. 議事録

冒頭、委員に交代がある旨、事務局から紹介があった。

（1）新型基幹ロケットの開発管理について

資料1「新型基幹ロケット開発の進め方（案）」※について、審議を行った。

審議の中で以下のようなやり取りがあった。（以下、○質問・意見等、●回答）

※資料1は、昨年5月の「宇宙輸送システム部会の中間とりまとめ」、昨年10月の「新型基幹ロケット開発着手に当たり整理すべき事項に関する取りまとめ」の二つの文書における、新型基幹ロケットの記述を整理し、今後、踏まえるべき開発の進め方として、とりまとめるものである。

○本書は必要に応じて随時見直しを行うとされているが、今後、新型基幹ロケットの開発の進捗に応じて、何度か修正する機会があるという理解で良いか。（山川部会長）

●今後、新型基幹ロケットを巡る状況が変わった場合、新型基幹ロケットの開発について本書に基づくことがふさわしいかということも変わり得るため、そのような場合に都度、本書を見直しできることとしている。（森参事官）

○新型基幹ロケットの開発において JAXA と民間事業者の間で意見が対立することも想定されるが、その場合、当事者同士の話し合いを基本としつつ、必要に応じて宇宙政策委員会でも議論を行い、方針を示すことも検討すべき（山川部会長、渡邊委員）。

審議の結果、資料1は部会長一任で編集上の修正を行い、次回の部会で再度審議することとなった。

その後、新型基幹ロケット開発におけるミッション要求等の設定について、文部科学省及び JAXA からヒアリングを行った。ヒアリングを受けて、新型基幹ロケット開

発におけるミッション要求等の設定について、審議を行った。審議の中で以下のようなやり取りがあった。

○国際競争力の確保の観点からは、打ち上げ回数の確保及び打ち上げサービスの受注に向けた強力な営業活動が必要。アリアンスペース社やスペース X 社は打ち上げサービスの受注のために強力な営業活動を展開している。（御正委員）

●JAXA と民間事業者が連携するとともに、トップセールスを行う等我が国の総力を結集して取り組むべき。（西本宇宙戦略室長）

○新型基幹ロケット開発は、2020 年頃の競合ロケットの動向を踏まえて実施する必要がある、所要の調査・検討を一層進めるべき。（山川部会長）

○新型基幹ロケットの組立棟を横置きにすることだが、その建設費も現在見積もられている総開発費（1,900 億円）の中に含まれているのか。（中村宇宙戦略室審議官）

●含まれている。（布野 JAXA 宇宙輸送ミッション本部事業推進部長）

○打ち上げサービスの利用者の観点からは、射場へのアクセスの利便性も重要。例えば、米国では、衛星を製造した後、陸路で射場へ運搬することができたり、衛星を運搬する航空機が離着陸できる大きな空港が射場の近くにあったりする。（仁藤委員）

●特に海外の衛星を運搬する際に、現在のように船舶で衛星を運搬すると高コストとなるため、種子島空港へ衛星を運搬する航空機が離着陸できるように滑走路を拡張することが打ち上げサービスの商業受注という観点で大きな課題である。（布野 JAXA 宇宙輸送ミッション本部事業推進部長）

●滑走路の拡張に関しては、空港を管轄している国土交通省にどのように理解してもらうのかということだと考える。（薬師寺委員）

○JAXA や民間事業者のみでは対応できない課題については、宇宙政策委員会等において国家戦略の観点から対応策の検討を行うべき。（渡邊委員）

新型基幹ロケット開発におけるミッション要求等の設定については、引き続き審議することとなった。

以 上